



若手ドライバーの育成に力を入れるべく、
新チーム「KDDI TGMGP TGR-DC」が始動。
小高一斗、平良響ともに開幕大会で
課題が見つかる。

2025年全日本スーパーフォーミュラ選手権開幕大会「NGK スパークプラグ 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦・第2戦」が3月8日（土）・9日（日）に鈴鹿サーキットで行われた。新チーム「KDDI TGMGP TGR-DC」は、片岡龍也監督のもと TOYOTA GAZOO Racing の育成ドライバーである #28小高一斗と#29平良響を起用。デビュー戦となる今大会は2台とも課題が残る内容となり、小高はRound1では他車と接触しリタイヤを喫し、Round2では18位完走。平良もRound1で15位、Round2では17位とポイント獲得はならなかった。

KDDI TGMGP TGR-DC **KAZUTO KOTAKA**
28 Driver **小高一斗**

Rd.1	
予選	14位
決勝	DNF
Rd.2	
予選	17位
決勝	18位

Rd.1	予選Q1	P7 (A Gr) / 1'38.835
	予選Q2	-
	決勝	- / 1'41.219
Rd.2	予選Q1	P9 (B Gr) / 1'37.752
	予選Q2	-
	決勝	P18 / 1'40.496

KDDI TGMGP TGR-DC **HIBIKI TAIRA**
29 Driver **平良響**

Rd.1	
予選	- 位
決勝	15位
Rd.2	
予選	18位
決勝	17位

Rd.1	予選Q1	- (B Gr) / 1'57.098
	予選Q2	-
	決勝	P15 / 1'41.183
Rd.2	予選Q1	P9 (A Gr) / 1'38.515
	予選Q2	-
	決勝	P17 / 1'39.783

Rd.1

予選 天候:晴れ/気温:8℃/路面温度:11℃
 決勝 天候:曇り/気温:13℃/路面温度:21℃

QUALIFYING



2025年の2レース開催時は金曜日に60分のフリー走行を2回実施し、土曜日にRound1の予選と決勝、日曜日にRound2の予選と決勝が行われる。午前に行われた予選では、強力なライバルを相手に小高が奮闘。Q2進出ラインに0.065秒差に迫る1分38秒635を記録。Q1敗退となったが14番グリッドにつけた。

Q1Bグループに出走した平良も、トップ6位以内に入るべく果敢にコーナーを攻めていったが、ベストタイムを記録した周回がコースをはみ出していたところがあったため、当該ラップタイムは抹消。21番手からの挽回を狙う。

RACE

27周で争われたRound1決勝。14番グリッドからスタートした小高は、1周目でポジションを3つ上げて11番手を走行。ポイント圏内間近というところまで迫った。その後、10番手を走るライバルに仕掛けていったが、9周目のS字コーナーで2台が接触。小高のマシンはタイヤバリアにヒットしてマシンが大きく破損し、



そこでリタイヤとなった。

一方、21番グリッドからスタートした平良は、スタートで7つポジションを上げることに成功。10周目にタイヤ交換を済ませると12番手に浮上した。しかし、13周目のシケインで追い抜きに来たライバルと接触。平良はフロントウイングの翼端版を破損。これにより思うようにペースを上げることができず、後半にはポジション後退を余儀なくされ、15位でフィニッシュした。

Rd.2

予選 天候:晴れ/気温:11℃/路面温度:18℃
 決勝 天候:曇り/気温:15℃/路面温度:38℃

QUALIFYING

前日とは打って変わり、朝から雲ひとつない青空が広がったRound2。前日のアクシデントでマシンにダメージを負った小高の28号車だが、メカニックの懸命な作業により修復が完了し、問題なく走行を始めた。

今回こそQ2進出を果たすべく小高はQ1Aグループで1分37秒752を記録するが、こちらも僅差でQ2進出には届かず、17番グリッドから上位を目指す。平良もスピード不足の解消を試みるもライバルを上回ることができず、1歩38秒515でQ1Aグループ9番手。18番グリッドから前日同様に挽回を図った。



RACE

この2レース目では、タイヤ交換義務を消化する周回数制限がなくなり、1周目からピットインが可能という新フォーマットが導入された。17番手スタートの小高は、早めにピットインする戦略を実行。2周目にタイヤ交換を済ませてポイント圏内を目指したが、後半でペースが思うように上がらず、徐々に順位を下げる展開に。最終的に18位でレースを終えた。一方の平良は折り返しを過ぎた18周目にピットイン。後半のペースアップを目指すも思うように順位を上げられず、17位完走となった。



28

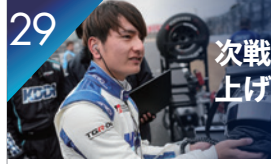


ライバルとの差を埋めていきたいです。

ドライバー 小高 一斗

第1戦では大湯都史樹選手とのバトルで接触をしましたが、自分のせいなのでピットに戻った後、みんなに謝罪しました。第2戦の予選に関してはQ2進出ラインのタイムに届きそうな手応えはありましたが、前日から路面温度が10℃以上変わっているなかで合わせることができませんでした。決勝も早めにピットインする作戦を選びましたが、ペースが思うように上がらなかったです。ライバルに対してコンマ数秒負けているものが30周走ると大きな差になっているので、もう少し細かい差を詰めていかないといけないと思っています。

29



次戦に向けてパフォーマンスを上げていく必要があります。

ドライバー 平良 響

今週末を振り返って一番のポイントは、パフォーマンス不足です。予選、決勝ともにスピードが足りず、特に決勝ではどの作戦を取っても、この辺りの順位で収まるのかなという感じでした。あとは第1戦での接触も痛手でしたが、あの順位で走っている僕も悪いですし、もっと前で走れるようにならないといけません。

次のもてぎに向けては、とにかくスピードを上げていきたいです。今回のデータを持ち帰って、整理整頓をしなければいけません。もっと上の順位でしっかり作戦も取れるようなペースを持って臨みたいです。



監督
片岡 龍也

新しい体制で“初陣”になりましたけど、なかなか上手くいきませんでした。第1戦では小高は前半にリタイヤとなり、平良も途中の接触でウイングの一部がなくなりました。目標としては第2戦につながるデータを取れるようなレースにしたいと言っていたなかで叶いませんでした。

クルマ自体のパフォーマンスの改善も必要ですが、現状のなかで2人とも全てを活かしきれていないところが、特に予選では見受けられました。やはり後方グリッドだと色々なことに巻き込まれるリスクも高いので、まずはパフォーマンスを上げることが一番の課題だと思っています。

鈴鹿での開幕大会は自分たちの現状を把握できたのと同時に、多くの課題が見つかった週末でした。

